

梅のにおい

夢野久作

青空文庫

一匹の斑猫^{ぶち}が人間の真似をして梅の木にのぼつて花を嗅いでみました。あの枝からこの枝、花から蕾といくつもいくつも嗅いでみましたが、

「ナアーンダ、人間がいいにおいだ、いいにおいだと言うから本当に嗅いでみたら、つまらないにおいじやないか。馬鹿馬鹿しい、帰ろう帰ろう」

と樹から降りかかりました。

「ホーホケキヨ、ホーホケキヨ」

「オヤ、鶯がやつて來たな。おれは一度あいつをたべてみたいと思つていたが、ちよどいい。ここに隠れてまつていてやろう」

「ホーホケキヨ、ホーホケキヨ、ケキヨ、ケキヨ、ケキヨ、ケキヨ、ケキヨ」

と言ううちに鶯は、斑のいる梅の木のすぐそばにある梅の花のたくさん開いたほそい枝の処へ、ヒヨイととなりました。

「鶯さん鶯さん」

と猫なでごえで呼びかけました。

「オヤ斑さん、今日はいいお天気ですね」

「ニヤーニヤー、ホントにいいお天気ですね。それにこの梅の花のにおいのいいこと。ほんとにたべたくなるようですね」

「オホホホホ、イヤな斑さんだこと。梅の花においしいにおいがしますか」

「ええ、梅のにおいをかぐとおなかが急にすくようです。あなたはどんなにおいがするのですか」

「あたしはねえ、梅のにおいを嗅ぐと何とも言えないいい気持ちになつて、歌がうたいたくなるのです。そうしてあちらこちらと躍りながら飛びまわりたくなるのです」

「へエ、さようですかね。そう言えばあたしも何だか踊りたくなつたようです」

「まあ、おもしろいこと。一つおどつてみせてちようだいな」

「いいえ、あたしはあなたの着物のにおいを嗅いだら一緒に踊りたくなつたのです、本当にあなたのにおいを嗅ぐといいこころもちになります。どうです、一緒に踊ろうじやありませんか」

「いやですよ。あなたと踊るのはこわい」

「何故です。ちつとも怖い事はないじやありませんか。もつとこ
つちへきてゞらんなさい」

「イヤですよ。妾のにおいを嗅いで踊りたくなつたと言うのは嘘
でしよう」

「どうして」

「たべたくなつたんでしょう」

と言ううちに鶯はパツと飛げ出しました。

「しまつた」

と斑が飛びつきますと、ドタリと地べたへ落ちてしまいました。

「ホーホケキヨ、ホーホケキヨ」

と鶯は隣のうちの梅の木で鳴っていました。

青空文庫情報

底本：「夢野久作全集7」 三一書房

1970（昭和45）年1月31日第1版第1刷発行

1992（平成4）年2月29日第1版第12刷発行

初出：「九州日報」

1924（大正13）年2月4-5日

※底本の解題によれば、初出時の署名は「香俱土三鳥」です。

入力：川山隆

校正：土屋隆

2007年7月21日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたつたのは、ボランティアの皆さんです。

梅のにおい

夢野久作

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>